



Cisco Unity Connection Serviceability

アドミニストレーション ガイド

Administration Guide for Cisco Unity Connection Serviceability

リリース 8.x

改訂：2010 年 3 月（初版：2010 年 2 月）

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

CCDE, CCENT, CCSI, Cisco Eos, Cisco HealthPresence, Cisco IronPort, the Cisco logo, Cisco Nurse Connect, Cisco Pulse, Cisco SensorBase, Cisco StackPower, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, Cisco Unified Computing System, Cisco WebEx, DCE, Flip Channels, Flip for Good, Flip Mino, Flipshare (Design), Flip Ultra, Flip Video, Flip Video (Design), Instant Broadband, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn, Cisco Capital, Cisco Capital (Design), Cisco:Financed (Stylized), Cisco Store, Flip Gift Card, and One Million Acts of Green are service marks; and Access Registrar, Aironet, AllTouch, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, Continuum, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Explorer, Follow Me Browsing, GainMaker, iLYNX, IOS, iPhone, IronPort, the IronPort logo, Laser Link, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, PCNow, PIX, PowerKEY, PowerPanels, PowerTV, PowerTV (Design), PowerVu, Prisma, ProConnect, ROSA, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0910R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Unity Connection Serviceability アドミニストレーションガイド、リリース 8.x

© 2010 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.

Copyright © 2010, シスコシステムズ合同会社.

All rights reserved.



CONTENTS

はじめに v

対象読者と用途 v

表記法 vi

関連資料 vi

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート vii

シスコ製品のセキュリティ vii

CHAPTER 1

バージョン 8.x の Cisco Unity Connection Serviceability の概要 1-1

バージョン 8.x の Cisco Unity Connection Serviceability について 1-1

バージョン 8.x 用の管理者ワークステーション上でのブラウザの設定
Firefox 1-2

Microsoft Internet Explorer 1-2

バージョン 8.x の Cisco Unity Connection Serviceability へのアクセス 1-3

バージョン 8.x の Cisco Unity Connection Serviceability インターフェイスの使用 1-4

CHAPTER 2

バージョン 8.x のアラームの使用法 2-1

バージョン 8.x のアラームについて 2-1

バージョン 8.x のアラーム定義 2-1

バージョン 8.x のアラーム定義の表示 2-2

バージョン 8.x のアラーム設定 2-2

CHAPTER 3

バージョン 8.x のトレースの使用法 3-1

バージョン 8.x のトレースについて 3-1

バージョン 8.x のトレース ログ ファイルの設定 3-2

バージョン 8.x のマイクロ トレースの有効化 3-2

バージョン 8.x で使用可能なマイクロ トレース 3-3

バージョン 8.x のマクロ トレースの有効化 3-9

バージョン 8.x で使用可能なマクロ トレース 3-9

| | | |
|------------------|--|------------|
| CHAPTER 4 | Cisco Unity Connection 8.x クラスタ内のサーバステータスとポートの管理 | 4-1 |
| CHAPTER 5 | Cisco Unity Connection 8.x サービスの管理 | 5-1 |
| | バージョン 8.x の Cisco Unity Connection サービス | 5-1 |
| | バージョン 8.x の Control Center でのサービス管理 | 5-3 |
| CHAPTER 6 | バージョン 8.x のレポートの使用方法 | 6-1 |
| | バージョン 8.x のレポートについて | 6-1 |
| | バージョン 8.x のレポート設定パラメータの設定 | 6-4 |
| | バージョン 8.x のレポートの生成と表示 | 6-5 |
| CHAPTER 7 | バージョン 8.x のボイス ネットワーク マップ ツールの使用方法 | 7-1 |
| | バージョン 8.x のボイス ネットワーク マップ ツールについて | 7-1 |
| | バージョン 8.x での Connection サイト内のその他の Cisco Unity Connection ロケーションへのリモートアクセスの設定 | 7-2 |
| | バージョン 8.x のボイス ネットワーク マップ ツールでのレプリケーション ステータス情報の表示 | 7-3 |



はじめに

この章の構成は、次のとおりです。

- 「対象読者と用途」 (P.v)
- 「表記法」 (P.vi)
- 「関連資料」 (P.vi)
- 「マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート」 (P.vii)
- 「シスコ製品のセキュリティ」 (P.vii)

対象読者と用途

『*Cisco Unity Connection Serviceability* アドミニストレーションガイド』では、Cisco Unity Connection Serviceability を通して、アラーム、トレース、クラスタ、およびサービスを設定する手順について説明します。Cisco Unity Connection または Cisco Unified Communications Manager Business Edition システムを設定、トラブルシューティング、およびサポートする管理者を対象としています。IP ネットワーキング テクノロジーに関する知識が必要です。



ヒント

Cisco Unity Connection では、Cisco Unified Serviceability と Cisco Unity Connection Serviceability の両方でサービスビリティ関連タスクを実行します。たとえば、問題を解決するには、両方のアプリケーションで、サービスの起動や停止、アラームの表示、およびトレースの設定が必要な場合があります。

Cisco Unified Serviceability は、『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』に記載された機能をサポートしています。Cisco Unity Connection Serviceability に固有のタスクについては、このマニュアル (『*Cisco Unity Connection Serviceability* アドミニストレーションガイド』) を参照してください。

表記法

表 1 『Cisco Unity Connection Serviceability アドミニストレーションガイド』の表記法

| 表記法 | 説明 |
|-----------------|--|
| 太字 | 次の場合は太字を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> キーおよびボタン名（例：[OK] を選択します） ユーザが入力する情報（例：[User Name] ボックスに Administrator と入力します）。 |
| <> (山カッコ) | ユーザが入力するパラメータを囲むために使用します（例：ブラウザで、 <a href="https://<Cisco Unity Connection サーバの IP アドレス>/cuadmin">https://<Cisco Unity Connection サーバの IP アドレス>/cuadmin にアクセスします）。 |
| - (ハイフン) | 同時に押す必要があるキーを表します（例：Ctrl-Alt-Delete を押します）。 |
| > (右向きの山カッコ) | Cisco Unity Connection Administration のナビゲーション バーで選択する順序を表します（例：Cisco Unity Connection Administration で、[Contacts] > [System Contacts] に移動します）。 |

『Cisco Unity Connection Serviceability アドミニストレーションガイド』では、次の表記法も使用します。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

関連資料

Cisco.com 上の Cisco Unity Connection に関するドキュメントの説明と URL については、『*Documentation Guide for Cisco Unity Connection*』Release 8.x を参照してください。このドキュメントは Cisco Unity Connection に同梱されていますが、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/roadmap/8xcucdg.html から入手することもできます。

Cisco.com 上の Cisco Unified Communications Manager Business Edition に関するドキュメントの説明と URL については、『*Cisco Unified Communications Manager Business Edition Documentation Guide*』を参照してください。このドキュメントは Cisco Unified CMBE に同梱されていますが、http://www.cisco.com/en/US/products/ps7273/products_documentation_roadmaps_list.html から入手することもできます。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

シスコ製品のセキュリティ

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

米国の輸出規制の詳細については、次の URL で参照できます。

http://www.access.gpo.gov/bis/ear/ear_data.html



CHAPTER 1

バージョン 8.x の Cisco Unity Connection Serviceability の概要

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability に関する基本情報を提供します。この章の構成は次のとおりです。

- 「バージョン 8.x の Cisco Unity Connection Serviceability について」 (P.1-1)
- 「バージョン 8.x 用の管理者ワークステーション上でのブラウザの設定」 (P.1-2)
- 「バージョン 8.x の Cisco Unity Connection Serviceability へのアクセス」 (P.1-3)
- 「バージョン 8.x の Cisco Unity Connection Serviceability インターフェイスの使用」 (P.1-4)

バージョン 8.x の Cisco Unity Connection Serviceability について

Cisco Unity Connection Serviceability は、Cisco Unity Connection 用のトラブルシューティング ツールであり、次のような機能を提供します。

- Connection アラーム定義の表示。これは、トラブルシューティングに使用できます。
- Connection トレースの有効化。Real-Time Monitoring Tool (RTMT) でトレース情報を収集して表示できます。
- Connection トレース情報を保存するログの設定。
- クラスタとサーバの管理 (Connection クラスタが設定されている場合)。



(注) Connection クラスタ機能は、Cisco Unified Communications Manager Business Edition ではサポートされていません。

- Connection 機能サービスのステータスの表示。
- Connection サービスのアクティブ化、非アクティブ化、起動、および停止。
- さまざまなファイル形式で表示できるレポートの生成。

含まれているサービスとコンポーネントによっては、Cisco Unity Connection Serviceability と Cisco Unified Serviceability の両方でサービスビリティ関連タスクを実行できます。たとえば、問題を解決する場合は、両方のアプリケーションで、サービスの起動や停止、アラームの表示、およびトレースの設定が必要になります。

Cisco Unity Connection Serviceability は『Cisco Unity Connection Serviceability アドミニストレーションガイド』に記載されている機能をサポートします。Cisco Unified Serviceability の使用方法については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

バージョン 8.x 用の管理者ワークステーション上でのブラウザの設定

Connection または Cisco Unified CMBE サーバ上で Cisco Unity Connection Serviceability、Cisco Unity Connection Administration、Cisco Unified Serviceability、Disaster Recovery System、およびその他の Web アプリケーションにアクセスするには、管理者ワークステーションでブラウザを正しくセットアップする必要があります。

コンピュータにインストールされているブラウザに応じて、次の該当する項を参照してください。

- 「Firefox」(P.1-2)
- 「Microsoft Internet Explorer」(P.1-2)

Firefox

Connection Web アプリケーションにアクセスできるように Firefox をセットアップするには、次のタスクを実行します。

1. 正しいブラウザ設定に必要なソフトウェアがインストールされていることを確認します。次の該当する要件ドキュメントの「Software Requirements—Administrator Workstations」の項を参照してください。
 - 『System Requirements for Cisco Unity Connection Release 8.x』。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/requirements/8xcucsysreqs.html から入手可能です。
 - 『System Requirements for Cisco Unity Connection in Cisco Unified CMBE Release 8.x』。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/requirements/8xcucmbesysreqs.html から入手可能です。
2. Firefox を次のように設定します。
 - a. Java を有効にします。
 - b. [Java Script] > [Enable Change Images in Java Script Advanced] をオンにします。
 - c. サイトでの cookie の設定を許可します（セキュリティ上の理由から、[Allow Sites to Set Cookies for the Originating Website Only] に設定することをお勧めします）。

Microsoft Internet Explorer

Connection Web アプリケーションにアクセスできるように Internet Explorer をセットアップするには、次のタスクを実行します。

1. 正しいブラウザ設定に必要なソフトウェアがインストールされていることを確認します。次の該当する要件ドキュメントの「Software Requirements—Administrator Workstations」の項を参照してください。

- 『*System Requirements for Cisco Unity Connection Release 8.x*』。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/requirements/8xcucsysreqs.html から入手可能です。
 - 『*System Requirements for Cisco Unity Connection in Cisco Unified CMBE Release 8.x*』。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/requirements/8xcucmbesysreqs.html から入手可能です。
2. Internet Explorer を次のように設定します。
 - a. アクティブ スクリプティングを有効にします。
 - b. ActiveX コントロールをダウンロードして実行します。
 - c. Java スクリプティングを有効にします。
 - d. すべての cookie を受け入れます。
 - e. 一時インターネット ファイルの新しいバージョンを自動的にチェックします。
 - f. 中-高プライバシーを有効にします。
 - g. Microsoft Windows Server 2003 を実行しており、Internet Explorer バージョン 6.0 を使用して Cisco Personal Communications Assistant にアクセスしている場合は、次の「**Connection または Cisco Unified CMBE サーバを信頼済みサイトの一覧に追加するには (Windows Server 2003 と Internet Explorer 6.0 を使用する場合のみ)**」の手順を実行して、信頼済みサイトの一覧に Connection サーバを追加します。

Connection または Cisco Unified CMBE サーバを信頼済みサイトの一覧に追加するには (Windows Server 2003 と Internet Explorer 6.0 を使用する場合のみ)

- ステップ 1 Cisco Personal Communications Assistant の [Sign-In] ページを開きます。Cisco PCA にサインインする必要はありません。
- ステップ 2 Internet Explorer の [File] メニューで、[Add This Site To] > [Trusted Sites Zone] を選択します。
- ステップ 3 [Trusted Sites] ダイアログボックスで、[Add] を選択します。
- ステップ 4 [Close] を選択して、[Trusted Sites] ダイアログボックスを閉じます。
- ステップ 5 Internet Explorer を再起動します。

バージョン 8.x の Cisco Unity Connection Serviceability へのアクセス

Cisco Unity Connection Serviceability に初めてサインインするときは、インストール中にインストーラからアカウントに対して指定されたデフォルト管理者アカウントのユーザ名とパスワードを使用します。次回からは、作成した新しい管理者アカウントのユーザ名とパスワードを使用できます。

バージョン 8.x の Cisco Unity Connection Serviceability にアクセスするには

- ステップ 1 サポートされている Web ブラウザを使用して、ブラウザセッションを開きます。
- ステップ 2 <https://<Cisco Unity Connection server IP address>/cuservice> にアクセスします。

ステップ 3 該当するユーザ名とパスワードを入力して、[Login] を選択します。

Cisco Unity Connection Serviceability にログインしたら、[Navigation] ドロップダウンボックスに表示される Cisco Unified オペレーティング システムの管理 と Disaster Recovery System 以外のすべてのアプリケーションにログインせずにアクセスできるようになります。

Cisco Unity Connection Serviceability のユーザ名とパスワードでは、Cisco Unified オペレーティング システムの管理 や Disaster Recovery System にアクセスできません。Cisco Unity Connection Serviceability からこれらのアプリケーションにアクセスするには、Cisco Unity Connection Serviceability の右上にある [Logout link] を選択してから、[Navigation] ドロップダウンボックスでアプリケーションを選択して、[Go] を選択します。

すでに、[Navigation] ドロップダウンボックスに表示されているアプリケーションのいずれか (Cisco Unified オペレーティング システムの管理 と Disaster Recovery System 以外) にログオンしている場合は、ログインせずに Cisco Unity Connection Serviceability にアクセスできます。[Navigation] ドロップダウンボックスで、[Cisco Unity Connection Serviceability] を選択して [Go] を選択します。

バージョン 8.x の Cisco Unity Connection Serviceability インターフェイスの使用

Cisco Unity Connection Serviceability でのトラブルシューティング、レポートの生成、サービス関連タスクの実行に加えて、次のタスクを実行できます。

- 単一ウィンドウ用のドキュメントを表示するには、[Help] > [This Page] を選択します。
- このリリースの Connection または Cisco Unified CMBE で入手可能なドキュメントのリストを表示 (またはヘルプの索引にアクセス) するには、[Help] > [Contents] を選択します。
- サーバ上で動作している Cisco Unity Connection Serviceability のバージョンを確認するには、[Help] > [About] を選択するか、ウィンドウの右上にある [About] リンクをクリックします。
- 設定ウィンドウから Cisco Unity Connection Serviceability 内のホームページに直接移動するには、[Navigation] ドロップダウンボックスで [Cisco Unity Connection Serviceability] を選択します。
- Cisco Unity Connection Administration またはその他のアプリケーションにアクセスするには、[Navigation] ドロップダウンボックスで該当するアプリケーションを選択して、[Go] を選択します。
- Cisco Unity Connection Serviceability からサインアウトするには、ウィンドウの右上にある [Logout] リンクを選択します。
- Cisco Unity Connection Serviceability の設定ページには、ページの下部にある設定ボタンに対応する設定アイコンも表示されます (たとえば、タスクを完了するには、[Save] アイコンと [Save] ボタンのどちらかを選択できます)。



CHAPTER 2

バージョン 8.x のアラームの使用方法

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのアラームの使用に関する情報を提供します。この章の構成は、次のとおりです。

- 「バージョン 8.x のアラームについて」(P.2-1)
- 「バージョン 8.x のアラーム定義」(P.2-1)
- 「バージョン 8.x のアラーム定義の表示」(P.2-2)
- 「バージョン 8.x のアラーム設定」(P.2-2)

バージョン 8.x のアラームについて

Cisco Unity Connection Serviceability のアラームは、実行時のステータスとシステムの状態に関する情報を提供します。そのため、システム関連の問題の解決に役立ちます。たとえば、アラームを使用して、MWI を設定可能なポートが存在するかどうかを判断できます。アラーム情報には、カタログ、名前、重大度、説明、推奨処置、ルーティングリスト、およびパラメータが含まれています。

アラームの有効/無効を切り替えて、ローカル サーバまたは指定したリモート サーバに `syslog` として表示できます。表示する重大度を設定することもできます。

アラームを収集するには、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で Trace and Log Central オプションを使用します。アラームを表示するには、RTMT で SysLog Viewer を使用します。

バージョン 8.x のアラーム定義

アラーム定義は、アラームの意味やアラームからの回復方法など、アラーム メッセージに関する記述です。

[Alarm Message Definitions] ページでアラーム情報を参照します。アラームを選択すると、アラーム情報の説明と推奨処置が [Alarm Information] ページに表示されます。トラブルシューティングを支援するために、定義にはアラーム名、状態、重大度、説明、推奨処置、ルーティングリスト、およびパラメータが含まれています。

バージョン 8.x のアラーム定義の表示

『*Alarm Message Definitions for Cisco Unity Connection Release 8.0*』でアラーム定義を検索して確認できます。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/alarm_messages/80cucalrmmmsgdefs.html から入手可能です。

バージョン 8.x のアラーム設定

この項では、アラームを有効/無効にする方法について説明します。該当する手順を実行します。

バージョン 8.x のアラームを有効にするには

-
- ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[Alarm] > [Configurations] を選択します。
 - ステップ 2 [Alarm Configurations] ウィンドウで、該当する処置を実行します。
 - SysLog Viewer のアプリケーション ログ領域でアラームの記録を可能にするには、[Enable Alarm] チェックボックスをオンにします。
 - リモート syslog サーバ上でアラームの保存を可能にするには、[Remote Syslogs] の下の [Enable Alarm] チェックボックスをオンにして、[Server Name] フィールドに、リモート syslog サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
 - ステップ 3 アラームを有効にした syslog の下の [Alarm Event Level] フィールドで、必要な重大度を選択します。
 - ステップ 4 [Save] を選択します。
-

バージョン 8.x のアラームを無効にするには

-
- ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[Alarm] > [Configurations] を選択します。
 - ステップ 2 [Alarm Configurations] ウィンドウで、該当する [Enable Alarm] チェックボックスをオフにします。
 - ステップ 3 [Save] を選択します。
-



CHAPTER 3

バージョン 8.x のトレースの使用方法

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのトレースの使用に関する情報を提供します。この章の構成は、次のとおりです。

- 「バージョン 8.x のトレースについて」 (P.3-1)
- 「バージョン 8.x のトレース ログ ファイルの設定」 (P.3-2)
- 「バージョン 8.x のマイクロ トレースの有効化」 (P.3-2)
- 「バージョン 8.x で使用可能なマイクロ トレース」 (P.3-3)
- 「バージョン 8.x のマクロ トレースの有効化」 (P.3-9)
- 「バージョン 8.x で使用可能なマクロ トレース」 (P.3-9)

バージョン 8.x のトレースについて

Cisco Unity Connection Serviceability トレースは、次のような方法で、問題の解決に役立てることができます。

- **Connection** コンポーネントに対してトレースを実行したときに作成されるログ ファイルの最大数や最大サイズなどのログ ファイル パラメータをコンポーネントごとに指定できます。
- マイクロ トレースと、必要なマイクロ トレース情報のレベルを有効にできます。
- マクロ トレース（事前に選択されたマイクロ トレースのグループ）と、必要なマクロ トレース情報のレベルを有効にできます。

ログ ファイルを設定してトレースを有効にしたら、次のいずれかの方法でトレース ログ ファイルを収集できます。

- **Real-Time Monitoring Tool (RTMT)** 内の **Trace and Log Central** オプションを使用して。詳細については、『*Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide*』の「**Working with Trace and Log Central**」の章（「**Tools for Traces, Logs, and Plug-Ins**」内）を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html から入手可能です。
- **Command Line Interface (CLI)**（コマンドライン インターフェイス）を使用して。詳細については、『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html から入手可能です。



(注) マクロ トレースまたはマイクロ トレースを有効にすると、システム性能が低下します。トラブルシューティングの目的以外では、トレースを有効にしないでください。

バージョン 8.x のトレース ログ ファイルの設定

Cisco Unity Connection サービスのトレース ログ ファイルを設定するには、この項の手順を実行します。



(注) トレース情報がログ ファイルに書き込まれるようにするには、まず、選択された領域にトラブルシューティング情報を提供するマイクロ トレースまたはマクロ トレースを有効にする必要があります。

バージョン 8.x のトレース ログ ファイルを設定するには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Trace] > [Configuration] を選択します。
[Trace Configuration] ページが表示されます。
 - ステップ 2** [Server] ドロップダウンボックスで、該当する Connection または Cisco Unified CMBE サーバを選択して、[Go] を選択します。
 - ステップ 3** [Component] ドロップダウンボックスで、トレース ログ ファイルを設定するコンポーネントを選択して、[Go] を選択します。
-  (注) ドロップダウンボックスにすべてのコンポーネントが表示されます (アクティブと非アクティブ)。
- ステップ 4** [Maximum No. of Files] フィールドに、このコンポーネント用に作成するトレース ログ ファイルの最大数を入力します。
 - ステップ 5** [Maximum File Size] フィールドに、このコンポーネント用に作成するトレース ログ ファイルのサイズ限界 (MB 単位) を入力します。
 - ステップ 6** デフォルト設定に戻す場合は、[Set Default] を選択します。それ以外の場合は、次のステップに進みます。
 - ステップ 7** [Save] を選択します。
 - ステップ 8** このコンポーネントの古いトレース ログ ファイルを新しいトレース ログ ファイルで置き換えるには、[Restart Log Files] を選択します。

バージョン 8.x のマイクロ トレースの有効化

マイクロ トレースは、特定の Cisco Unity Connection コンポーネントに伴う問題のトラブルシューティング中に有効にします。たとえば、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) 内の Alert Central ツールで通知エラーが発生した場合は、Notifier トレースを有効にします。ただし、トレースを実行すると、システム性能とハードディスク スペースに影響する可能性があることに注意してください。



(注) マイクロトレースを有効にすると、システム性能が低下します。トラブルシューティングの目的以外では、トレースを有効にしないでください。

バージョン 8.x のマイクロトレースを有効にするには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Trace] > [Micro Traces] を選択します。
[Micro Traces] ページが表示されます。
- ステップ 2** [Server] ドロップダウンボックスで、該当する Connection または Cisco Unified CMBE サーバを選択して、[Go] を選択します。
- ステップ 3** [Micro Trace] ドロップダウンボックスで、有効にするマイクロトレースを選択して、[Go] を選択します。
- ステップ 4** [Micro-Trace Levels] の下で、有効にするマイクロトレースレベルに対応するチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [Save] を選択します。



ヒント

Connection の問題を解決するには、Cisco Unity Connection Serviceability と Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にしなければならない場合があります。Connection コンポーネントをトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability でトレースを有効にします。同様に、Cisco Unified Serviceability でサポートされているサービスをトラブルシューティングするには、Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にします。Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にする方法については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html から入手可能です。

バージョン 8.x で使用可能なマイクロトレース

表 3-1 に、使用可能なマイクロトレース、それぞれの分析対象の説明、およびそれぞれのトレースログのファイル名を示します。

表 3-1 バージョン 8.x のマイクロトレース

| マイクロトレース名 | トレースの分析対象 | トレースログのファイル名 |
|------------|--|-------------------|
| Arbiter | コールに使用されるカンバセッション、ポート、およびコールルーティングルール | diag_CuCsMgr_*.uc |
| AudioStore | Media Master を使用してオーディオストリームを再生または録音する Web ベースのアプリケーションで使用されるオーディオ録音サービス | diag_Tomcat_*.uc |
| AxlAccess | 電話機に関する特性を取得または設定するための AXL サーバとのデータのやり取り | diag_Tomcat_*.uc |

表 3-1 バージョン 8.x のマイクロ トレース (続き)

| マイクロ トレース名 | トレースの分析対象 | トレース ログのファイル名 |
|---------------------------|---|---|
| BulkAdministrationTool | 複数のユーザまたはシステム連絡先の作成、更新、および削除に使用される Bulk Administration Tool | diag_Tomcat_*.uc |
| CCL | カレンダー機能の会議情報の取得 | diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuGalSvc_*.uc diag_Tomcat_*.uc |
| CDE | カンパセーション エンジンとカンパセーション イベント | diag_CuCsMgr_*.uc |
| CDL | データベースからの情報の取得 | diag_CuCsMgr_*.uc diag_Tomcat_*.uc |
| CiscoPCA | Cisco Personal Communications Assistant (Cisco PCA) | diag_Tomcat_*.uc |
| CML | Cisco Unity Connection メッセージストアからのメッセージの取得、テキスト/スピーチ機能を使用して電子メール メッセージを読み取るための Exchange サーバからのメッセージの取得 (IMAP を使用) | diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuNotifier_*.uc diag_Tomcat_*.uc |
| Common | Cisco Unity Connection サービスで共有されたコンポーネントの低水準アクティビティ | <任意> |
| ConfigData | データベース内で更新された設定データの検出 | <任意> |
| ConvRoutingRules | Arbiter からコールがルーティングされるカンパセーション | diag_CuCsMgr_*.uc |
| ConvSub | ユーザのアクティビティと使用状況 | diag_CuCsMgr_*.uc |
| CsLicense | ライセンス処理に関連した機能 | diag_CuLicSvr_*.uc |
| CsMalUmss | CML、Notifier、および IMAP サーバによるメッセージストアへのアクセス | diag_CuCsMgr_*.uc diag_Tomcat_*.uc |
| CsWebDav | Exchange に関連したカレンダー アクティビティ | diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuGalSvc_*.uc diag_Tomcat_*.uc |
| Cuals | ユーザを追加するための Web サービスのアクティビティ | diag_Tomcat_*.uc |
| Cuca | Cisco Unity Connection Administration のアクティビティ | diag_Tomcat_*.uc |
| CuCcmSynchronizationTasks | Cisco Unified CM からのユーザデータの同期化 | diag_Tomcat_*.uc |
| CuCmDbEventListener | Cisco Unified CM データベース上の変更の検出 | diag_CuCmDbEventListener_*.uc |
| CuCsMgr | Cisco Unity Connection の主要プロセス、Connection の起動と停止 | diag_CuCsMgr_*.uc |

表 3-1 バージョン 8.x のマイクロトレース (続き)

| マイクロトレース名 | トレースの分析対象 | トレース ログのファイル名 |
|-------------------|--|------------------------|
| CuDbProxy | Cisco Unity Connection クラスタのデータベース レプリケーション | diag_CuDbProxy_*.uc |
| CuEncrypt | 暗号化 (メッセージングを除く) と暗号化監査ログ | <任意> |
| CuESD | Cisco Unity Connection の外部サービス診断ツールのアクティビティ | diag_Tomcat_*.uc |
| CuFileSync | Cisco Unity Connection クラスタのファイル レプリケーション | diag_CuFileSync_*.uc |
| CuGal | Exchange からのカレンダーおよび連絡先情報の取得 | diag_CuGalSvc_*.uc |
| CulmapSvr | IMAP クライアントによるボイスメッセージへのアクセス | diag_CulmapSvr_*.uc |
| CuReplicator | デジタル ネットワーキングのレプリケーション (注) Debug Traces および Debug Statistics のマイクロトレース レベルでは大量のログ エントリが生成される場合があるため、これらのマイクロトレース レベルを有効にする期間は 1 時間以内にするをお勧めします。 | diag_CuReplicator_*.uc |
| CuService | Cisco Unity Connection Serviceability のアクティビティ | diag_Tomcat_*.uc |
| CuSnmpAgt | Cisco Unity Connection SNMP サブエージェントのアクティビティ | diag_CuSnmpAgt_*.uc |
| DataSysAgentTasks | Data SysAgent タスク | diag_CuSysAgent_*.uc |
| DbEvent | データベース変更のコンポーネント通知 | <任意> |
| DPAPI | 診断ポータルアプリケーションプログラミング インターフェイス Web サービスのアクティビティ | diag_Tomcat_*.uc |
| FailureConv | システム エラーが発生した場合の障害カンバセーションの有効化 | diag_CuCsMgr_*.uc |
| Feeder | サイト間ネットワークでは、ローカル サイトの変更追跡データベースでディレクトリ変更をチェックし、リモート サイト ゲートウェイの Reader タスクからのポーリング要求に応答します。 | diag_Tomcat_*.uc |
| FeedReader | サイト間ネットワークでは、定期的に、リモート サイト ゲートウェイで最後のポーリング インターバル以降のディレクトリ変更をポーリングします。 | diag_Tomcat_*.uc |

表 3-1 バージョン 8.x のマイクロ トレース (続き)

| マイクロ トレース名 | トレースの分析対象 | トレース ログのファイル名 |
|---------------------|---|-------------------|
| LicenseClient | ライセンス管理に関連した機能 | diag_CuCsMgr_*.uc |
| Logger | トレース、ログ、およびイベントの書き込み | <任意> |
| MediaMasterControl | クライアントワークステーション上の Media Master | diag_Tomcat_*.uc |
| MediaMasterUMS | Media Master と AudioStore 間のストリーム オーディオ録音を処理する UMS サービス | diag_Tomcat_*.uc |
| MediaMasterWeb | Media Master を備えた Web ベースアプリケーションで使用される Web ページ レンダリング モジュール | diag_Tomcat_*.uc |
| MessageEventService | メッセージの到着または削除の検出 | diag_Tomcat_*.uc |
| MiuAdm | ボイス メッセージ ポートのテストと証明書の生成に関連した Cisco Unity Connection Administration の機能 | diag_Tomcat_*.uc |
| MiuCall | Miu とカンバセーション間のプロセス | diag_CuCsMgr_*.uc |
| MiuDatatbase | データベースへのアクセスに関連したメディア アクティビティ | diag_CuCsMgr_*.uc |
| MiuGeneral | Telephone User Interface (TUI; 電話ユーザ インターフェイス) 経由のコール追跡、呼制御機能、Message Waiting Indicator (MWI; 通話待ち指示器) のオン/オフの切り替え、通知機能とアウトダイヤル機能、基本メディアまたは WAV ファイルの使用状況 | diag_CuCsMgr_*.uc |
| MiuIO | TAPI (回線交換または Cisco Unified CallManager) 連動でのメディアまたは WAV ファイルの使用状況 | diag_CuCsMgr_*.uc |
| MiuMethods | 着信コールの処理、呼制御、MWI のオン/オフの切り替え、通知機能とアウトダイヤル機能、メディアまたは WAV ファイルの使用状況 | diag_CuCsMgr_*.uc |
| MiuSIP | SIP 呼制御 | diag_CuCsMgr_*.uc |
| MiuSIPStack | 呼制御に関する低水準 SIP 相互作用 | diag_CuCsMgr_*.uc |
| MiuSkinny | SCCP 呼制御 | diag_CuCsMgr_*.uc |
| MiuTranscode | トランスコーディングに関連した低水準メディア機能 | diag_CuCsMgr_*.uc |
| Mixer | メディアおよびテキスト/スピーチ機能に関連した低水準アクティビティ | diag_CuMixer_*.uc |

表 3-1 バージョン 8.x のマイクロトレース (続き)

| マイクロトレース名 | トレースの分析対象 | トレース ログのファイル名 |
|-----------------------|---|---|
| Monitor | コール中のボイス メッセージ ポートのステータスとコール処理の監視、Real-Time Monitoring Tool にポート ステータスを表示するためのサーバ側機能 | diag_CuCsMgr_*.uc |
| MTA | メッセージストアへのボイス メッセージの配信 | diag_MTA_*.uc |
| Notifier | メッセージと選択されたイベントの通知、MWI のオン/オフの切り替え | diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuNotifier_*.uc |
| PCAMeetingPlace | カレンダー機能の MeetingPlace に関連した Cisco Personal Communications Assistant のアクティビティ | diag_Tomcat_*.u |
| PCUnifiedCM | Cisco Unified Communications Manager 連動に関連した Cisco Personal Communications Assistant のアクティビティ | diag_Tomcat_*.uc |
| PhoneManager | IP 電話アプリケーションの管理 | diag_CuCsMgr_*.uc |
| PhraseServer | 再生するプロンプトとユーザ DTMF 入力、ログはファイルに書き込まれる | diag_CuCsMgr_*.uc |
| PhraseServerToMonitor | 再生するプロンプトとユーザ DTMF 入力、ログはモニタに出力される | diag_CuCsMgr_*.uc |
| ReportDataHarvester | レポート データベース内のエントリに対するデータ ログ ファイルの内容の変換 | diag_CuReportDataHarvester_*.uc |
| ResourceLoader | GUI での選択された言語の使用、製品またはメッセージ情報を使用した文字列入力 | <任意> |
| ResourceManager | 使用可能なリソースを監視し、必要に応じて Arbiter に提供 | diag_CuCsMgr_*.uc |
| RoutingRules | コール ルーティングの決定 | diag_CuCsMgr_*.uc |
| RSS | RSS クライアントからのボイスメールの確認に使用される RSS フィード | diag_Tomcat_*.uc |
| RulesEngine | コール中に行われるユーザのパーソナル着信転送ルールの評価 | diag_CuCsMgr_*.uc diag_Tomcat_*.uc |
| SMTP | SMTP 機能 | diag_SMTP_*.uc |
| SocketPoolHelper | IMAP サーバへのソケット接続 | <任意> |
| SRM | クラスタ管理に関連した機能 | diag_CuSrm_*.uc |
| SslInit | OpenSSL を使用するコンポーネントの初期化手順 | <任意> |

表 3-1 バージョン 8.x のマイクロ トレース (続き)

| マイクロ トレース名 | トレースの分析対象 | トレース ログのファイル名 |
|-------------------|--|---------------------------------------|
| SttClient | 音声テキスト変換が必要なメッセージの検出、変換したテキストを元のメッセージへ添付 | diag_MTA_*.uc |
| SttService | Cisco Unity Connection と外部のサードパーティ音声テキスト変換サービスとの通信 | diag_SttService_*.uc |
| SysAgent | 管理者が入力したシステム タスク (MWI の再同期化など) をスケジュールするシステム エージェント コンポーネント | diag_CuSysAgent_*.uc |
| TaskRequest | タスク管理ツールに関連した機能 | diag_CuSysAgent_*.uc |
| TextToSpeech | テキスト/スピーチ機能のアクティビティ | diag_CuCsMgr_*.uc |
| ThreadPool | プロセッサによるスレッドの使用 | <任意> |
| TimerHelper | Conversation Manager コンポーネントで使用されるタイマー | <任意> |
| TranscodeWeb | 着信オーディオ ストリームを Cisco Unity Connection で使用されるオーディオ形式に変換する Web サーバ オーディオ形式変換ユーティリティ | diag_Tomcat_*.uc |
| TRaP | クライアントが電話機を録音および再生デバイスとして使用できるようにする Telephone Record and Playback (TRaP; 電話での録音と再生) | diag_CuCsMgr_*.uc diag_Tomcat_*.uc |
| UmssSysAgentTasks | System Agent コンポーネントのメッセージ タスク | diag_CuSysAgent_*.uc |
| UnityAssistant | Cisco Personal Communications Assistant 内の Messaging Assistant Web ツールのアクティビティ | diag_Tomcat_*.uc |
| UnityInbox | Cisco Personal Communications Assistant 内の Messaging Inbox Web ツールのアクティビティ | diag_Tomcat_*.uc |
| UnityPCTR | Cisco Personal Communications Assistant 内の Cisco Unity Connection Personal Call Transfer Rules Web ツールのアクティビティ | diag_CuCsMgr_*.uc |
| VirtualQueue | コール キューイング | diag_CuCsMgr_*.uc |
| VMREST | Representational State Transfer (REST) API クライアントとのデータのやり取り | diag_Tomcat_*.uc |
| VMWS | ボイス メッセージ Web サービスとのデータのやり取り | diag_Tomcat_*.uc |
| VUI | ボイス ユーザ インターフェイス | diag_CuCsMgr_*.uc |

バージョン 8.x のマクロトレースの有効化

マクロトレース（事前に選択されたマイクロトレースのセット）は、Connection 機能の一般的な領域をトラブルシューティング中に有効にします。たとえば、MWI 問題が発生した場合は、Traces for MWI Problems マクロトレースを有効にします。ただし、トレースを実行すると、システム性能とハードディスクスペースに影響する可能性があることに注意してください。



注意

マクロトレースを有効にすると、システム性能が低下します。トラブルシューティングの目的以外では、トレースを有効にしないでください。

マクロトレースを有効にするには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Trace] > [Macro Traces] を選択します。
[Macro Traces] ページが表示されます。
- ステップ 2** [Server] ドロップダウンボックスで、該当する Connection または Cisco Unified CMBE サーバを選択して、[Go] を選択します。
- ステップ 3** 有効にするマクロトレースのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** マクロトレースを展開して、有効にするレベルに対応するチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [Save] を選択します。



ヒント

Connection の問題を解決するには、Cisco Unity Connection Serviceability と Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にしなければならない場合があります。Connection コンポーネントをトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability でトレースを有効にします。同様に、Cisco Unified Serviceability でサポートされているサービスをトラブルシューティングするには、Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にします。Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にする方法については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html から入手可能です。

バージョン 8.x で使用可能なマクロトレース

表 3-2 に、使用可能なマクロトレース、それぞれの分析対象の説明、およびそれぞれのトレースログのファイル名を示します。

表 3-2 バージョン 8.x のマクロトレース

| マクロトレース名 | トレースの分析対象 | トレースログのファイル名 |
|-------------------------|------------------------------------|---|
| Call Flow Diagnostics | Cisco Unity Connection 経由のコールフロー | diag_CuCsMgr_*.uc |
| Message Tracking Traces | メッセージ処理、メッセージを処理するオブジェクト（配信から削除まで） | diag_CuSysAgent_*.uc diag_MTA_*.uc diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuImapSvr_*.uc diag_Tomcat_*.uc |

表 3-2 バージョン 8.x のマクロ トレース (続き)

| マクロ トレース名 | トレースの分析対象 | トレース ログのファイル名 |
|--|--|---|
| Call Control (Miu) Traces | 呼制御機能 | diag_CuCsMgr_*.uc |
| Traces for MWI Problems | MWI のオン/オフの切り替え | diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuNotifier_*.uc |
| Traces for Other Notification Problems | 通知機能とアウトダイヤル機能 | diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuNotifier_*.uc |
| Unity Startup | Cisco Unity Connection 起動機能 | diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuNotifier_*.uc |
| Conversation Traces | カンパセーションの使用状況 | diag_CuCsMgr_*.uc |
| Voice User Interface/Speech Recognition Traces | Voice user interface (VUI; ボイス ユーザ インターフェイス) | diag_CuCsMgr_*.uc |
| Media (Wave) Traces | メディアおよび WAV ファイルの使用状況 | diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuMixer_*.uc |
| Text to Speech (TTS) Traces | テキスト/スピーチ (TTS) 機能、TTS とデータをやり取りする別の Cisco Unity Connection コンポーネントに関するトレースを記録することもできる | diag_CuCsMgr_*.uc |
| Connection Serviceability Web Service | Cisco Unified Serviceability のアクティビティ | diag_Tomcat_*.uc |
| ViewMail for Outlook | Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook クライアントのアクティビティ | diag_CuCsMgr_*.uc diag_CuImapSvr_*.uc diag_MTA_*.uc diag_Tomcat_*.uc |
| Digital Networking | デジタル ネットワーキング機能 | diag_CuReplicator_*.uc |



CHAPTER 4

Cisco Unity Connection 8.x クラスタ内のサーバステータスとポートの管理

Cisco Unity Connection Serviceability の [Cluster Management] ページを使用すれば、Connection クラスタ内のサーバのステータスを変更したり、サーバ上のすべてのポートで新しいコールの受信を拒否したり、サーバ上のすべてのポートを再起動してコールの受信を許可したりすることができます。

該当する手順については、『*Cluster Configuration and Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』の「[Administering a Cisco Unity Connection 8.x Cluster](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/cluster_administration/guide/8xcuccagx.html)」の章を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/cluster_administration/guide/8xcuccagx.html から入手可能です。



(注)

Connection クラスタ機能は、Cisco Unified Communications Manager Business Edition ではサポートされていません。



CHAPTER 5

Cisco Unity Connection 8.x サービスの管理

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのサービスの管理に関する情報を提供します。この章の構成は、次のとおりです。

- 「バージョン 8.x の Cisco Unity Connection サービス」 (P.5-1)
- 「バージョン 8.x の Control Center でのサービス管理」 (P.5-3)

バージョン 8.x の Cisco Unity Connection サービス

Cisco Unity Connection には、表 5-1 に記載されたサービスがあります。

表 5-1 バージョン 8.x の Cisco Unity Connection サービス

| サービス | 説明 |
|-----------------------------------|---|
| ステータスのみのサービス | |
| Connection DB | このサービスは、Connection データベースを有効にします。Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) からしか非アクティブにできません。 |
| Connection Server Role Manager | このサービスは、Connection クラスタの設定時にサーバ ステータスを有効にします。CLI からしか非アクティブにできません。 |
| Connection Serviceability | このサービスは、Cisco Unity Connection Serviceability 管理インターフェイスを有効にします。CLI からしか非アクティブにできません。 |
| 重要なサービス | |
| Connection Conversation Manager | このサービスは、Connection によるコール処理を可能にします。このサービスを無効にすると、Connection の機能が低下します。 |
| Connection Message Transfer Agent | このサービスは、メッセージストアへのメッセージ配信を有効にします。このサービスを無効にすると、Connection の機能が低下します。 |
| Connection Mixer | このサービスは、コール用のオーディオ (メディア ストリーム)、録音メッセージ、および Text to Speech (TTS; テキスト/スピーチ) を有効にします。このサービスを無効にすると、Connection の機能が低下します。 |

表 5-1 バージョン 8.x の Cisco Unity Connection サービス (続き)

| サービス | 説明 |
|---|---|
| Connection Notifier | このサービスは、Message Waiting Indicator (MWI; 通話待ち指示器) のオン/オフの切り替えなどのメッセージ通知を有効にします。このサービスを無効にすると、Connection の機能が低下します。 |
| 基本サービス | |
| Connection Administration | このサービスは、Cisco Unity Connection Administration とインターフェイスで保存された設定を有効にします。 |
| Connection DB Event Publisher | このサービスは、Connection データベースに対する変更の Connection コンポーネントへの通知を有効にします。 |
| ConnectionLicense Server | このサービスは、インストールされたライセンス ファイルを読み取って、使用中のシート数を追跡し、ライセンスされた機能を有効にすることによって、Connection のライセンスングを有効にします。 |
| Connection SNMP Agent | このサービスは、Cisco-Unity-MIB を使用する Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) を有効にします。 |
| オプション サービス | |
| Connection Access Layer | このサービスは、Cisco Unity Access Layer (CUAL) の HTTP/SOAP Web サービスを使用することによって、Connection とその他のサーバ間でのユーザ データの共有を可能にします。たとえば、このサービスは、Cisco Unified Communications Manager Business Edition (CMBE) または Cisco Unity を使用した Digital Networking で使用できます。 |
| Connection CM Database Event Listener | このサービスは、Cisco Unified Communications Manager データベース内の変更検出を可能にします。 |
| Connection Database Proxy | このサービスは、Connection クラスターのデータベース レプリケーションを可能にします。 |
| Connection Diagnostic Portal Service | このサービスは、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の Diagnostic Portal による Connection 上でのデータへのアクセスを可能にします。 |
| Connection Digital Networking Replication Agent | このサービスは、Digital Networking 用の Connection サーバ間でのデータ レプリケーションを可能にします。 |
| Connection Directory Feeder | サイト間ネットワークングでは、このサービスが、ローカル サイトの変更追跡データベースでディレクトリ変更をチェックし、リモート サイト ゲートウェイの Reader タスクからのポーリング要求に応答します。 |
| Connection File Syncer | このサービスは、Connection クラスターのファイル レプリケーションを可能にします。 |
| Connection Groupware Caching Service | このサービスは、Connection によるカレンダー データ (Exchange、MeetingPlace、または MeetingPlace Express の各サーバから) のキャッシュと Exchange 連絡先のキャッシュを可能にします。 |
| Connection IMAP Server | このサービスは、IMAP クライアントによる Connection 上でのデータへのアクセスを可能にします。 |

表 5-1 バージョン 8.x の Cisco Unity Connection サービス (続き)

| サービス | 説明 |
|---|---|
| Connection Inbox RSS Feed | このサービスは、RSS クライアントからのボイスメールをチェックするために RSS フィードを有効にします。 |
| Connection Integrated Mailbox Configuration | このサービスは、Connection と Cisco Unified Communications Manager 間でのユーザ データの共有を可能にします。 |
| Connection Jetty | このサービスは、Java Web クライアントを有効にします。 |
| Connection Message Event Service | このサービスは、Cisco Unified Mobility Advantage による Connection 上でのボイス メッセージ データへのアクセスを可能にします。 |
| Connection Personal Communication Assistant | このサービスは、Cisco Personal Communications Assistant (Cisco PCA) による Connection 上でのデータへのアクセスを可能にします。 |
| Connection Realtime Monitoring APIs | このサービスは、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) による Connection 上でのデータへのアクセスを可能にします。 |
| Connection Reports Data Harvester | このサービスは、レポート データベース内のエントリに対するログ ファイル内のデータの変換を可能にします。レポートの生成に使用されます。 |
| Connection REST Service | このサービスは、Representational State Transfer (REST) API クライアントを有効にします。 |
| Connection SMTP Server | このサービスは、SMTP サーバによる Connection 上でのデータへのアクセスを可能にします。 |
| Connection SpeechView | このサービスは、SpeechView 機能を有効にし、外部のサードパーティ音声テキスト変換サービスと通信します。 |
| Connection System Agent | このサービスは、管理者が Cisco Unity Connection Administration で入力可能なスケジュール システム タスク (MWI の再同期化など) を有効にします。 |
| Connection Voicemail Web Service | このサービスは、Visual Voicemail などの Cisco Unified Communications Widgets による Voicemail Web Service (VMWS; ボイスメール Web サービス) 経由で Connection 上でのデータへのアクセスを可能にします。 |
| Connection Voice Recognition Transport | このサービスは、Voice User Interface (VUI; ボイス ユーザー インターフェイス) 用の音声認識エンジンで使用される動的文法の生成と配置を可能にします。 |
| Connection Voice Recognizer | このサービスは、VUI 用の音声認識を可能にする音声認識エンジンです。 |

バージョン 8.x の Control Center でのサービス管理

Cisco Unity Connection Serviceability の Control Center を使用すれば、次のタスクを実行できます。

- [Optional Services] セクションの Connection サービスをアクティブまたは非アクティブにします。
- [Status Only Services] セクション内のサービスを除くすべての Connection サービスを起動または停止します。

[Critical Services] セクション内の Connection サービスを停止すると、進行中のコールが切断され、Connection または Cisco Unified CMBE サーバの通常の機能が停止または低下する可能性があります。

Cisco Unity Connection クラスタが設定されている場合は、ステータスが [Primary] になっているサーバの [Critical Services] セクション内のサービスを停止すると、クラスタ内のサーバのステータスが変わります。

- Connection サービスのステータスを表示します。
- Connection サービスのステータスをリフレッシュします。



ヒント

問題を解決するには、Cisco Unity Connection Serviceability と Cisco Unified Serviceability の両方でサービスを管理しなければならない場合があります。

Cisco Unified Serviceability サービスについては、『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。

この項では、5 つの手順（Connection サービスのアクティブ化、非アクティブ化、起動、停止、およびサービス ステータスのリフレッシュ）について説明します。アクティブ化、非アクティブ化、起動、または停止できるサービスは一度に 1 つだけです。

バージョン 8.x の Control Center でサービスをアクティブにするには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools] > [Service Management] を選択します。
- ステップ 2** [Server] ドロップダウンボックスで、該当する Connection または Cisco Unified CMBE サーバを選択して、[Go] を選択します。
- ステップ 3** [Optional Services] の下で、アクティブにするサービスを探します。
- ステップ 4** [Change Activate Status] カラムで、[Activate] を選択します。

バージョン 8.x の Control Center でサービスを非アクティブにするには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools] > [Service Management] を選択します。
- ステップ 2** [Server] ドロップダウンボックスで、該当する Connection または Cisco Unified CMBE サーバを選択して、[Go] を選択します。
- ステップ 3** [Optional Services] の下で、非アクティブにするサービスを探します。
- ステップ 4** [Change Activate Status] カラムで、[Deactivate] を選択します。

バージョン 8.x の Control Center でサービスを起動するには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools] > [Service Management] を選択します。
- ステップ 2** [Server] ドロップダウンボックスで、該当する Connection または Cisco Unified CMBE サーバを選択して、[Go] を選択します。

ステップ 3 起動するサービスを探します。



(注) 非アクティブになっているサービスは、アクティブにしてから起動する必要があります。

ステップ 4 [Change Service Status] カラムで、[Start] を選択します。

バージョン 8.x の Control Center でサービスを停止するには

ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools] > [Service Management] を選択します。

ステップ 2 [Server] ドロップダウンボックスで、該当する Connection または Cisco Unified CMBE サーバを選択して、[Go] を選択します。

ステップ 3 停止するサービスを探します。



(注) [Status Only Services] セクション内のサービスは、Cisco Unity Connection Serviceability で起動または停止できません。このようなサービスを起動または停止するには、CLI を使用する必要があります。

Connection クラスタが設定されている場合は、ステータスが [Primary] になっているサーバの [Critical Services] セクション内のサービスを停止すると、クラスタ内のサーバのステータスが変化します。サービスを停止したときにステータスが変化しないようにするには、Cisco Unity Connection Administration の [System Settings] > [Advanced] > [Cluster Configuration] ページで、[Automatically Change Server Status When the Publisher Server Fails] チェックボックスをオフにする必要があります。

ステップ 4 [Change Service Status] カラムで、[Stop] を選択します。



(注) [Critical Services] セクション内の Connection サービスを停止すると、進行中のコールが切断され、Connection または Cisco Unified CMBE サーバの通常の機能が停止または低下する可能性があります。

アクティブになっていないサービスは、起動および停止できません。

ステップ 5 クラスタ サーバのステータスが変化することの確認が求められたら、[OK] を選択します。

バージョン 8.x の Control Center でサービス ステータスをリフレッシュするには

ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools] > [Service Management] を選択します。

ステップ 2 [Server] ドロップダウンボックスで、該当する Connection または Cisco Unified CMBE サーバを選択して、[Go] を選択します。

ステップ 3 [Refresh] を選択します。

ステータス情報が、最新のステータスを反映するように更新されます。



CHAPTER 6

バージョン 8.x のレポートの使用方法

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのレポートの使用に関する情報を提供します。この章の構成は、次のとおりです。

- 「バージョン 8.x のレポートについて」 (P.6-1)
- 「バージョン 8.x のレポート設定パラメータの設定」 (P.6-4)
- 「バージョン 8.x のレポートの生成と表示」 (P.6-5)

バージョン 8.x のレポートについて

Cisco Unity Connection Serviceability を使用すれば、システム設定とコールハンドラに関する情報を収集してレポートを作成できます。

表 6-1 に、Cisco Unity Connection Serviceability で生成可能なレポートの説明を示します。

表 6-1 バージョン 8.x の Cisco Unity Connection Serviceability で使用可能なレポート

| レポート名 | 出力の説明 |
|------------------------------|--|
| Phone Interface Failed Logon | 電話での Connection へのサインインが失敗した場合の次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none">• サインインに失敗したユーザのユーザ名、エイリアス、発信者 ID、および内線番号• ログオンに失敗した日付と時刻• ユーザがサインイン失敗の最大回数に達したかどうか |
| Users | 各ユーザに関する次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none">• 姓、名、およびエイリアス• ユーザに関連付けられた Connection または Cisco Unified CMBE サーバを識別する情報• 課金 ID、サービス クラス、および内線番号• アカウントがロックされているかどうか• ユーザがパーソナル着信転送ルールを有効にしていたかどうか |

表 6-1 バージョン 8.x の Cisco Unity Connection Serviceability で使用可能なレポート (続き)

| レポート名 | 出力の説明 |
|-------------------|--|
| Message Traffic | 次のトラフィック カテゴリの総数が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> 音声 ファックス 電子メール Non-Delivery Receipt (NDR; 不達確認) 配信確認 受信確認 時間別合計 日別合計 |
| Port Activity | ボイス メッセージ ポートに関する次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> 名前 処理されたインバウンド コールの数 処理されたアウトバウンド MWI コールの数 処理されたアウトバウンド AMIS コールの数 処理されたアウトバウンド通知コールの数 処理されたアウトバウンド TRaP コールの数 処理されたコールの総数 |
| Mailbox Store | 指定されたメールボックス ストアに関する次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> メール データベース名 表示名 サーバ名 アクセスが可能かどうか メールボックス ストアのサイズ 最後のエラー ステータス メール データベースを削除できるかどうか |
| Dial Plan | Connection または Cisco Unified CMBE サーバ上で設定されたサーチ スペースのリストと、各サーチ スペースに割り当てられたパーティションの順序付きリストが含まれています。 デジタル ネットワークに属しているサーバの場合は、ネットワーク上の他のすべての Connection の場所にあるサーチ スペースと関連するパーティション メンバシップのリストも含まれています。 |
| Dial Search Scope | Connection ディレクトリに設定された特定のパーティション内のすべてのユーザとその内線番号のリストが含まれています。パーティションが指定されていない場合は、ディレクトリ内で設定されたすべてのパーティションに関するすべてのユーザとその内線番号のリストが含まれています。 |

表 6-1 バージョン 8.x の Cisco Unity Connection Serviceability で使用可能なレポート (続き)

| レポート名 | 出力の説明 |
|---------------------------|--|
| User Phone Login and MWI | <p>ユーザごとの電話ログイン、MWI アクティビティ、および電話機に対するメッセージ通知に関する次の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 名前、内線番号、およびサービス クラス 各アクティビティの日付と時刻 各アクティビティのソース 完了した処理 (ログイン、MWI のオン/オフ、電話機のダイヤルアウトなど) ダイヤルアウト番号と結果 (電話機に対するメッセージ通知の場合にのみ適用可能) ログイン時のユーザに対する新しいメッセージの数 |
| User Message Activity | <p>送受信されたメッセージに関するユーザごとの次の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 名前、内線番号、およびサービス クラス 各メッセージの日付と時刻 メッセージのタイプ 完了した処理 (メッセージの新規作成やメッセージの開封など) メッセージ送信者に関する情報 |
| Distribution Lists | <p>次の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> リストの名前と表示名 リストが作成された日付と時刻 (日付と時刻はグリニッジ標準時で指定されます) リストに登録されたユーザ数のカウント [Include List Members] チェックボックスがオンになっている場合は、リストのメンバーになっているユーザごとのエイリアスのリスト |
| User Lockout | <p>ユーザのエイリアス、ユーザがログオンに失敗した回数、クレデンシャルのタイプ (結果が「4」の場合は Connection カンバセーションからのログオン試行を示し、「3」の場合は Web アプリケーションからのログオン試行を示す)、およびアカウントがロックされた日付と時刻が含まれています。</p> <p>(日付と時刻はグリニッジ標準時で指定されます)</p> |
| Unused Voicemail Accounts | <p>ユーザのエイリアスと表示名、およびユーザ アカウントが作成された日付と時刻が含まれています。</p> <p>(日付と時刻はグリニッジ標準時で指定されます)</p> |
| Transfer Call Billing | <p>各コールに関する次の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザの名前、内線番号、および課金 ID コールが発生した日付と時刻 ダイヤルされた電話番号 転送の結果 (接続、Ring-No-Answer (RNA; 応答なし)、通話中、または不明) |

表 6-1 バージョン 8.x の Cisco Unity Connection Serviceability で使用可能なレポート（続き）

| レポート名 | 出力の説明 |
|------------------------------------|--|
| Outcall Billing Detail | 次の情報が含まれています。これらの情報は、日付および電話をかけたユーザの内線番号ごとに整理されています。 <ul style="list-style-type: none"> 名前、内線番号、および課金 ID コールが発生した日付と時刻 呼び出された電話番号 コールの結果（接続、Ring-No-Answer (RNA; 応答なし)、通話中、または不明) コールの長さ（秒単位） |
| Outcall Billing Summary | 日付および電話をかけたユーザの名前、内線番号、および課金 ID ごとに整理されています。これは 1 日（24 時間）のリストであり、時間ごとに指定されたダイヤルアウト秒数が示されています。 |
| Call Handler Traffic | 各コールハンドラに関する次の情報が含まれています。1 行が 1 時間分を表します。 <ul style="list-style-type: none"> コールの総数 電話機のキーパッドの各キーが押された回数 内線番号 無効な内線番号 グリーティング処理の回数 発信者が電話を切った回数 |
| System Configuration | Connection システム設定のすべての側面に関する詳細な情報が含まれています。 |
| SpeechView Activity Report By User | 特定の期間、特定のユーザに関する、テキスト変換されたメッセージ、失敗したテキスト変換、および一部が欠落したテキスト変換の総数が含まれています。全ユーザに関するレポートを実行した場合は、ユーザ単位で出力されます。 |
| SpeechView Activity Summary Report | 特定の期間のシステム全体における、テキスト変換されたメッセージ、失敗したテキスト変換、および一部が欠落したテキスト変換の総数が含まれています。メッセージが複数の受信者に送信された場合でも、メッセージがテキストに変換されるのは 1 回だけです。そのため、テキスト変換アクティビティは 1 回しかカウントされません。 |

バージョン 8.x のレポート設定パラメータの設定

Cisco Unity Connection は、レポート生成の基礎となるデータを収集して保存するように自動的に設定されます。この項で列挙するパラメータは、生成対象レポートの出力に合わせて調整できます。すべてのレポートパラメータの設定が、Cisco Unity Connection Administration の [System Settings] > [Advanced] > [Reports] ページにあります。

レポートデータは、データの保存に関して設定したパラメータに応じて、どんどん上書きされます。履歴を残すためにレポートを保管する場合は、レポートを定期的に生成するスケジュールを立て、生成されたレポートを Connection または Cisco Unified CMBE サーバ以外の場所に保存することをお勧めします。

[Milliseconds Between Data Collection Cycles] : デフォルトで 30 分 (1,800,000 ミリ秒) に設定されます。この設定によって、Connection がレポート データの収集サイクル間で待機する時間が制御されます。

[Days to Keep Data in Reports Database] : デフォルトで 180 日に設定されます。生成するレポートの期間としてこの日数を超える数値を指定しても、データの日数がこの設定に制限されることに注意してください。

[Maximum Records in Report Output] : デフォルトで 25,000 レコードに設定されます。このフィールドに許容される最大値は、30,000 レコードです。生成するレポートが許容されるレコードの最大数を超えている場合は、レポートを何回かに分けて生成します (たとえば、1 回に含める日付の範囲やユーザアカウント数を減らします)。



(注) User Message Activity Report の [Maximum Records in Report Output] 設定は、デフォルトの 25,000 レコードではなく、15,000 レコードに制限されています。これは、レポートのサイズが大きくなるためです。

[Minimum Records Needed to Display Progress Indicator] : デフォルトで 2,500 レコードに設定されます。このフィールドに許容される最大値は、10,000 レコードです。進捗インジケータの目的は、要求したレポートのサイズが大きく、完了に時間がかかる場合に警告することです。Connection では、レポートはブラウザから生成します。このブラウザ セッションは、レポートが生成されるまで開いたままにしておく必要があります。データベースのサイズや生成しているレポートのタイプによっては、レポートの生成に時間がかかることがあります。この間は、ブラウザを使用できず、Connection Administration セッションを開いたままにしておく必要があります。

バージョン 8.x のレポートの生成と表示

レポートを生成する場合は、次の項目の一部または全部を指定できます。

- レポートに含めるオブジェクト (ユーザアカウントやコールハンドラなど)
- レポートに含める日付と時刻の範囲
- レポート内のデータのソート順

レポートのファイル形式は、次の中から選択できます。

| | |
|-------------|--|
| Web ページ | HTML ファイル レポート出力は、Web ブラウザに表示されます。 小さなレポートをすぐに表示するには、この形式を選択します。 レポートを保管しておく場合は、PDF レポートを生成することをお勧めします。 |
| カンマ区切りのファイル | テキストファイル (CSV ファイルともいう)。レポート出力は、カンマで区切られたデータ スtring として表示されます。 スプレッドシート アプリケーションなどの別のアプリケーションで情報を表示または印刷する場合に、この形式を選択します。 |
| PDF ファイル | レポート出力は、印刷および保存が可能な PDF として表示されます。 レポートを保管しておく場合は、この形式を選択することをお勧めします。 |

レポートを生成するには、システムがビジー状態でない時間帯が最適です。Connection が多くのコールを処理していない通常の営業時間後、または、他のプロセスが実行中でない場合（フルバックアップの前後など）です。レポート生成要求は、キューに入れられます。複数のレポートが（それぞれ別のブラウザから）同時に生成された場合は、レポートが順次待機し、一度に 1 つずつ処理されます。



注意

システムがビジー状態のときに大きなレポートを生成すると、システム リソースを消費し、結果としてシステム ユーザに対する応答時間が長くなる可能性があります。

レポートは、事前にスケジュールできません。レポートの生成中に Connection または Cisco Unified CMBE サーバをシャットダウンするか、Connection Administration のブラウザ セッションを閉じると、レポートの生成がキャンセルされます。

バージョン 8.x でレポートを生成して表示するには

- ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools] > [Reports] を選択します。
- ステップ 2 [Serviceability Reports] ページで、生成するレポートの名前を選択します。
- ステップ 3 レポート出力に適切なファイル形式を選択します。
- ステップ 4 フィールドが使用可能な場合は、開始時間と終了時間（年、月、日、時刻）を選択して、日付の範囲を設定します。
- ステップ 5 必要に応じて、その他のパラメータを設定します。
- ステップ 6 [Generate Report] を選択します。
- ステップ 7 ステップ 3 で選択したファイル形式に従って、レポート出力を表示します。

| | |
|-------------|---|
| Web ページ | 出力がブラウザ ウィンドウに表示されます。 |
| カンマ区切りのファイル | ファイル ダウンロード ダイアログボックスが表示され、ファイルを開くか、保存するかが尋ねられます。 |
| PDF ファイル | ファイル ダウンロード ダイアログボックスが表示され、ファイルを開くか、保存するかが尋ねられます。 |



CHAPTER 7

バージョン 8.x のボイス ネットワーク マップ ツールの使用方法

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのボイス ネットワーク マップ ツールの使用に関する情報を提供します。この章の構成は、次のとおりです。

- 「バージョン 8.x のボイス ネットワーク マップ ツールについて」 (P.7-1)
- 「バージョン 8.x での Connection サイト内のその他の Cisco Unity Connection ロケーションへのリモート アクセスの設定」 (P.7-2)
- 「バージョン 8.x のボイス ネットワーク マップ ツールでのレプリケーション ステータス情報の表示」 (P.7-3)

バージョン 8.x のボイス ネットワーク マップ ツールについて

ボイス ネットワーク マップ ツールを使用すれば、Cisco Unity Connection サイト内のロケーションの状態を 1 か所で確認できます（このツールでは、サイト間ゲートウェイとして機能しているサイト内のロケーションを特定することもできますが、その他のサイトの状態は表示できません）。

このツールを使用すれば、サイト内のレプリケーション問題を簡単に特定したり、サイト内の任意のロケーションで行われているレプリケーションのステータスに関する情報を入手したりすることができます。

このツールには、サイト表示、データ表示、およびサイト表示内のアイコンの意味を説明する鍵が含まれています。

サイト表示には、Connection サイト内のロケーションごとのアイコンが表示されます。アイコン自体がロケーションの状態のインジケータになっています（特定のロケーションからデータが収集できないことを示す場合もあります）。

データ表示には、サイト表示で選択されたロケーションのペアに関する情報が表示されます。この情報には、現在、あるロケーションでディレクトリ情報が別のロケーションと一緒にプルまたはプッシュされているかどうかと、あるロケーションでやり取りされるレプリケーション メッセージの USN、つまり、シーケンス番号に関する情報が含まれています（2 つのロケーションが同期している場合は、レプリケーション更新を送信しているロケーションの [Last USN Sent] と [Last USN Acknowledged] の値が、更新を受信しているロケーションの [Last USN Received] の値と一致します。レプリケーション中は、[Last USN Acknowledged] の値が [Last USN Sent] の値より低いのが普通です）。Cisco Unity Connection Administration でも、プッシュ/プル状態や USN 情報を検索できますが、ボイス ネットワーク マップ ツールを使用すれば、1 か所ですべてを確認できるため、情報へのアクセスが容易になります。

サイト表示内のアイコンに関する詳細情報については、鍵を使用します。ポインタを鍵の中のアイコンに移動すると、それに関する情報が表示されます。[More] リンクを選択すれば、その他のアイコンを表示できます。

**ヒント**

オプションで、ロケーションアイコンを右クリックすると、そのロケーションの Cisco Unity Connection Serviceability または Cisco Unity Connection Administration にアクセスできます。ロケーションがサイト間リンクへのゲートウェイの場合は、リモート サイト内のサーバのマップを表示することもできます。

バージョン 8.x での Connection サイト内のその他の Cisco Unity Connection ロケーションへのリモートアクセスの設定

ボイス ネットワーク マップ ツールで、Cisco Unity Connection サイト内の他のロケーションから必要なデータを収集するには、このツールを使用するロケーションに、サイト内の他のロケーションに関するサインイン情報が保存されている必要があります。サインイン情報はサイト内のロケーション間で複製されないため、サイト内の複数のロケーションでボイス ネットワーク マップ ツールを使用する場合は、ツールを使用するロケーションごとに、この項の手順を実行する必要があります。

**(注)**

サインイン情報は、Connection Administration の一括編集モードでネットワーク全体のオブジェクトを編集する場合にも使用されます。サインイン情報を変更すると、一括編集モードへのアクセスにも影響します。

バージョン 8.x で Connection サイト内の他の Cisco Unity Connection 場所へのリモートアクセスを設定するには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[Networking] を展開してから、[ConnectionLocation Passwords] を選択します。
- ステップ 2** [Search Enterprise Administration Passwords] ページで、リストから Connection ロケーションのいずれかを選択します。
- ステップ 3** [Alias] フィールドに、リモート サーバへのサインインに使用するアカウントのユーザ名を入力します。このアカウントは、System Administrator ロールを持っている必要があります。
- ステップ 4** [Password] フィールドに、リモート サーバへのサインインに使用するアカウントのパスワードを入力します。
- ステップ 5** [Add New] を選択します。
- ステップ 6** [Save] を選択します。



ヒント リモートアクセスは、必要なときにのみ設定することもできます。リモートアクセスが不要になったら、[Search Enterprise Administration Password] ページで該当するアカウントの横にあるチェックボックスをオンにして、[Delete Selected] を選択することによって、サインイン情報を削除できます。

- ステップ 7** 必要に応じて、[ステップ 2](#)～[ステップ 6](#)を繰り返して、Connection サイト内の他のロケーションへのリモートアクセスを設定します。

バージョン 8.x のボイス ネットワーク マップ ツールでのレプリケーション ステータス情報の表示

ボイス ネットワーク マップ ツールを使用するには、Cisco Unity Connection サイト内の他のロケーションへのリモートアクセスを設定して、ツールで必要なデータを収集できるようにする必要があります。「バージョン 8.x での Connection サイト内のその他の Cisco Unity Connection ロケーションへのリモートアクセスの設定」(P.7-2) を参照してください。

バージョン 8.x のボイス ネットワーク マップ ツールでレプリケーション ステータス情報を表示するには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability の [Tools] メニューで、[Voice Network Map] を選択します。
- ステップ 2** [Voice Network Map] ページで、レプリケーション ステータス情報を表示する最初のロケーションを選択します。
- ステップ 3** [ステップ 2](#) で選択したロケーションと別のロケーションの間で送信、受信、または確認応答された USN メッセージに関するレプリケーション状態とデータを表示するには、2 つ目のロケーションにポインタを移動します。



ヒント ポインタを新しいロケーションに移動することによって、2 つ目のロケーションにすばやく変更できます。または、情報表示をロケーションのペアに「ロック」するには、Control キーを押しながら 2 つ目のロケーションを選択します。ロックを解除するには、Control キーを押しながら、2 つ目のロケーションを選択する操作を繰り返します。

- ステップ 4** 最初のロケーションを変更するには、新しいロケーションを選択してから、[ステップ 3](#) を繰り返します。
- ステップ 5** 指定した更新インターバルに基づいて、ツールの表示情報が定期的に更新されます。更新インターバルを変更するには：
 - a. [Config] タブを選択します。
 - b. [Update Interval] フィールドに、表示情報の更新頻度に関する値を入力します。最小値は 15 秒で、デフォルト値は 30 秒です。Tomcat サービスが再起動されるたびに、インターバルがデフォルト値にリセットされます。
 - c. [Save] を選択します。
- ステップ 6** 定期更新を一旦停止して、現在のデータを表示し続けるには、[Pause] タブを選択します。タブのラベルが [Resume] に変化します。ツールの定期更新を再開させる場合に選択します。
- ステップ 7** 次の更新インターバルを待たずにレプリケーション情報を即時更新するには、[Update] タブを選択します。

■ バージョン 8.x のボイス ネットワーク マップ ツールでのレプリケーション ステータス情報の表示



INDEX

C

Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool。「RTMT」を参照

Cisco Unity Connection Serviceability の機能 [1-1](#)

Control Center

サービス リスト [5-1](#)

サービスを管理するための使用 [5-3](#)

F

Firefox、管理者ワークステーションでの設定 [1-2](#)

I

Internet Explorer、管理者ワークステーションでの設定 [1-2](#)

R

RTMT、アラームを収集および表示するための使用 [2-1](#)

S

SpeechView アクティビティ要約レポート (SpeechView Activity Summary Report)、説明 [6-4](#)

SpeechView ユーザ単位アクティビティ レポート (SpeechView Activity Report By User)、説明 [6-4](#)

SQL データベース、アラーム定義の検索 [2-1](#)

あ

アクセス

Cisco Unity Connection Serviceability [1-3](#)

ヘルプ [1-4](#)

アラーム

概要 [2-1](#)

重大度 [2-2](#)

設定 [2-2](#)

定義 [2-1](#)

定義の表示 [2-2](#)

データベースでの定義の検索 [2-1](#)

有効化 [2-2](#)

い

インターフェイスの使用 [1-4](#)

か

概要

Cisco Unity Connection Serviceability [1-1](#)

ボイス ネットワーク マップ ツール [7-1](#)

管理

Cisco Unity Connection クラスタ内のサーバ ステータス [4-1](#)

Cisco Unity Connection クラスタ内のポート [4-1](#)

管理者ワークステーション、ブラウザの設定 [1-2](#)

き

機能サービス

起動、停止、再起動、およびリフレッシュ [5-3](#)

リスト [5-1](#)

け

検索、バージョンの [1-4](#)

こ

コールハンドラトラフィックレポート (Call Handler Traffic Report)、説明 [6-4](#)

さ

サービスステータス、Cisco Unity Connection クラスタ内の管理 [4-1](#)

サービス

アクティブ化 [5-3](#)

起動 [5-3](#)

停止 [5-3](#)

非アクティブ化 [5-3](#)

リスト [5-1](#)

リフレッシュ [5-3](#)

サービスのアクティブ化 [5-3](#)

サービスの起動 [5-3](#)

サービスの停止 [5-3](#)

サービスの非アクティブ化 [5-3](#)

サービスのリフレッシュ [5-3](#)

し

システム設定レポート (System Configuration Report)、説明 [6-4](#)

使用、インターフェイスの [1-4](#)

診断トレース、概要 [3-1](#)

せ

設定

Connection サイト内の他の Connection ロケーションへのリモートアクセス、ボイス ネットワーク マップ ツール [7-2](#)

管理者ワークステーション上のブラウザ [1-2](#)

た

ダイヤル検索範囲レポート (Dial Search Scope Report)、説明 [6-2](#)

ダイヤルプランレポート (Dial Plan Report)、説明 [6-2](#)

て

データベース、アラーム定義の検索 [2-1](#)

転送コール課金レポート (Transfer Call Billing Report)、説明 [6-3](#)

電話インターフェイスのログイン失敗レポート (Phone Interface Failed Logon Report)、説明 [6-1](#)

と

同報リストレポート (Distribution Lists Report)、説明 [6-3](#)

トレース

概要 [3-1](#)

マイクロ、有効化 [3-2](#)

マイクロ、リスト [3-3](#)

マクロ、有効化 [3-9](#)

マクロ、リスト [3-9](#)

ログファイルの設定 [3-2](#)

は

バージョンの検索 [1-4](#)

発信課金詳細レポート (Outcall Billing Detail Report)、説明 [6-4](#)

発信課金要約レポート (Outcall Billing Summary Report)、説明 [6-4](#)

パラメータ、レポートの設定 [6-4](#)

ひ

表示

ボイス ネットワーク マップ ツール内のレプリケーション ステータス情報 [7-3](#)

レポート [6-5](#)

ふ

ブラウザ、管理者ワークステーションでの設定 [1-2](#)

へ

ヘルプ、アクセス [1-4](#)

ほ

ボイス ネットワーク マップ ツール

Connection サイト内の他の Connection ロケーション
へのリモート アクセスの設定 [7-2](#)

概要 [7-1](#)

レプリケーション ステータス情報の表示 [7-3](#)

ポート、Cisco Unity Connection クラスタ内の管理 [4-1](#)

ポート アクティビティ レポート (Port Activity Report)、
説明 [6-2](#)

ま

マイクロ トレース

有効化 [3-2](#)

リスト [3-3](#)

マクロ トレース

有効化 [3-9](#)

リスト [3-9](#)

み

未使用ボイスメール アカウント レポート (Unused Voice
Mail Accounts Report)、説明 [6-3](#)

め

メールボックス ストア レポート (Mailbox Store Report)、
説明 [6-2](#)

メッセージトラフィック レポート (Message Traffic
Report)、説明 [6-2](#)

ゆ

ユーザ電話ログインおよび NMI レポート (User Phone
Login and MWI Report)、説明 [6-3](#)

ユーザ メッセージ アクティビティ レポート (User
Message Activity Report)、説明 [6-3](#)

ユーザ レポート (Users Report)、説明 [6-1](#)

ユーザ ロックアウト レポート (User Lockout Report)、
説明 [6-3](#)

れ

レポート

生成 [6-5](#)

設定パラメータの設定 [6-4](#)

説明 [6-1](#)

表示 [6-5](#)

レポート設定パラメータの設定 [6-4](#)

レポートの生成 [6-5](#)

ろ

ログ ファイル、トレース用の設定 [3-2](#)

